

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		学校評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程・学習指導	①生徒の学習意欲を高め、進路実現を図る Semester制の教育課程編成と組織的な授業改善に取り組む。	①昨年度完成した年次進行型 Semester制の諸課題を元に、新学習指導要領改訂に向けた基盤作りに取り組む。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善を推進する。	①1)年次進行型 Semester制教育課程編成について、履修指導の改善に取り組む。新学習指導要領改訂に向け、諸課題について検証し、より適切なものを編成する。 ①2)教科の枠を越えたチームを編成し教科・系列等関係部署と連携を密にしながら、主体的・対話的で深い学びを支える授業について研究し、その成果を学校全体で共有・実践する。	①1)生徒の多様な進路希望の実現につながる年次進行型 Semester制教育課程の編成による運用ができたか。また、新学習指導要領改訂に対応した教育課程案ができたか。 ①2)学校全体で組織的に授業改善に取り組むことができたか。（校内研修や研究授業、研究協議の開催数）	①1)年次進行型 Semester制教育課程編成について、オンライン上での登録作業の導入等、履修指導の改善に取り組んで新システムを構築した。新学習指導要領に対応した教育課程について諸課題を検討し、より適切に編成し、12月の仮申請を終えた。 ①2)コロナ感染症対策を取りながらの新しい授業形態の模索をしている。	①1)HR 教室単位で行う必履修科目の半期末履修者の対応、通年化で対応を検討中である。 ①2)後期科目のオンラインシステムの活用、全生徒を後期科目もクラスルーム登録させた。	本年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延し2度にわたる緊急事態宣言が発出されて非日常生活の中での学校教育の推進のために IT 技術の駆使が余儀なくされた。年次進行型 Semester制教育課程編成には、登録希望作業を Googleフォームによって自動集計できたが、最終的な科目登録にはオンライン登録ではなし得ない部分が存在し更なる検討が必要である。 生徒の満足度アンケート調査の結果では、満足度、必要能力の修得、学習活動の将来への有効度、思考力・判断力・表現力の向上、その他高校生活での意識向上など80%を超える高い評価となった。 一方「他者の考えを知り自らの考えを広げ深める機会がある」という項目が低い。コロナ禍終息後の授業では生徒によるプレゼンの機会を増やす必要がある。	①1)登録希望作業(7月)、仮登録作業(9月)を Googleフォームを利用して自動集計を実現した。新学習指導要領に対応した教育課程を十分に検討し仮申請(12月)を終えた。最終的な科目登録の調整が、オンライン登録ではできなく、従来の紙ベースで行った。 2) Google Classroom を活用し、オンラインで課題配信提出、解答配信、個別対応等、通常の授業を補強する形で活用した。 グループワーク、実習授業で、人数割り、形態を授業内容に即して、見直しを図り、コロナ感染状況に合わせて、試行した。	①1)最終的な科目登録の調整は仕様が違うので、さらなる対応が課題として残った。 2)日々感染状況が変化し、学校としての対応も変化し続けているので、定型的なものがない。外的要素なので柔軟に対応し続ける。

		② 課題研究等を見直し、課題解決力や表現力を高める探究活動の充実を図る。	② 課題研究等の内容・形式を改善し、課題解決力やプレゼンテーション能力の向上を図る。	② 課題設定・課題解決力やプレゼンテーション能力を高め、表現力と探究活動の充実を図る。	② 課題研究等における内容・発表方法の工夫・改善が効果的に行われ総合学科高校としてより充実したものになっているか。	② 実授業時間が少ない中で、休校中のオンライン授業を活用し、従来通りの探究活動の維持に努めた。休校期間中にもオンライン指導を行い、プレゼンテーションの様子を動画で提出させることができた。また、全校生徒が参加する課題研究発表会を実施することができた。	② オンライン学習を活用し、探究活動の充実を図れた。 外部の専門家へ直接インタビューすることが難しい場合、代替の方策として、ズーム会議を活用して代替を行った。		② ズーム会議を活用し、外部の人材を活用したオンライン会議で、インタビュー実習等の対応ができた。ただし、WiFi環境が脆弱で、年次規模の活動には支障がでる。生徒の発表等も、グループワークをクラウド上で共同制作を行わせ、発表する活動がうまく機能した。	② WiFi環境が全面的なオンライン活用を行う状況に耐えられるように、回線の増強を待ちながら、運用方法を工夫していく。
2	生徒指導・支援	① 部活動を活性化させ、生徒の責任感や協働力の涵養を図る。 ② 専門家と連携し、生徒の社会的自立を促す、きめ細やかな生徒指導・支援の充実を図る。	① 生徒の主体性を重視し、部活動等を活性化させ、責任感や協働力の涵養を図る。 ② スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制を整備し、一人ひとりの生徒に応じた組織的支援の充実を図る。	① 部活動紹介や体験入部等のプログラムを通じて、入部しやすい環境を設定する。また生徒会が主体となって、部活動等を学校全体の取組となるようにする。 ② 生徒の情報を共有しケース会議、コア会議等を適宜開催して、組織的に生徒支援を行う。	① 活動の入部率を上げることができ、前年度に比べ生徒の部活動定着率を維持することができたか。また、部長等による話し合いを実施し部活動等を活性化することができたか。 ② ケース会議、コア会議等を適切に開催し、具体的な生徒支援につなげることができたか。	① 新型コロナウイルスにより、1年次への部活動説明も遅れたりしたが、今年の1年次の部活動の参加状況はよく、同好会を目指した活動も行われた。 ② これまでにケース会議を5回開催した。これにより問題を抱える生徒への適切な支援につなげた。	① 新型コロナウイルスが続いたとしても、部活動説明を遅らせることがないよう、映像と活動を組み合わせる。 登校日数が少ない中で1年次の部活動参加状況が良かったことはよい傾向であると考えられる。 ② 問題を抱える生徒に対して支援をすることができているので、これからも継続していきたい。	授業日数が例年より著しく少ない中で感染症対策をしながら部活動や委員会活動さらには学校祭が実施された。生徒自身が問題意識を持って臨んだ結果であると判断できる。 ① 新型コロナウイルスの影響は大きかったが、体育祭は延期して行い、文化祭もコロナウイルス感染症拡大の影響が出ないように行った。 ② 問題を抱える生徒に対しての支援として、SC、SSWらと協力しながら問題解決のための支援を行った。また、ケース会議を時宜に応じて行うことができた。	① 生徒主体にしていくため、色々な条件を想定して行事等の計画・準備を行っていく。 ② 引き続き様々な生徒に対応できるように、SC、SSWらと協力しながら情報共有やケース会議などを行っていく。	

3	進路指導・支援	生徒が主体的に進路を考え、実現に向けて必要な能力や態度を育む指導・支援の充実を図る。	生徒が主体的に進路を選択できるよう、外部教育力の活用をすすめ、生徒の学力・進路希望を適切に把握し、ガイダンス機能を充実させる。また、キャリア教育の一環として、規範意識の向上を図る。	1) 教員向け研修を工夫して実施し、ガイダンスを充実させる。 2) 生徒に対する十分な説明と広報を行い、校内での学習や校外での体験活動等の充実を図る。 3) 校内・校外におけるルールとマナーの重要性を様々な機会を設けて徹底させる。	1) 研修の成果を生徒との面談に活用し進路支援に役立てることができたか。 2) Classroom 等によりキャリア教育の活動が十分になされたか。 3) ルールとマナーを守りキャリア教育としての規範意識が向上したか。	1) 専門学校学習会、スタディアプリ学習会を実施した。また3年次担任向けに進路情報のアクセス方法について周知した。3月にも学習会を企画予定である。 2) オンライン下において、Classroom を利用して進路ガイダンス、進路面談を実施した。 3) 進路ガイダンスや外部講師の講話の機会を活用し、マナーの向上を意識づけた。	1) スタディアプリについては常に本校での狙いを明確にして共通認識をはかる必要がある。また具体的学校や受験情報を担任が持てるように支援する必要がある。 2) 今後も活用方法を探っていく。 3) 教員側にも主旨を十分周知して、意識付けをさらに進めていく必要がある。	進路については、大学進学が増加し専門学校等がやや減少した。入学の手段として総合型が減少し指定校推薦、公募推薦等の利用者が増加したようであるが、大学等の入試状況の変化によるものだろう。企業が採用を控える中で、就職希望者の内定が得られたことは高く評価できる。アンケート結果から「産業施設や福祉施設での活動体験や体験学習、大学・専修学校や他校との連携学習」の満足度はやや低いがコロナ禍の影響と考える。	1) 来校して得た専門学校や大学情報については担任に提供して具体的進路指導につなげることが出来た。一方でオンラインで行われた学校説明会情報の活用については検討が必要である。 2) 進路ガイダンスの一部とインタビュー実習をZoomで、3年生の進路講演会をMeetで実施した。また進路希望調査や進路活動報告にクラスルームを利用し、昨年度から大きく進展した。 3) 直接人に接する機会は減ったが、服装や話し方等について指導を継続した。	1) 各種進路行事について感染症対策等を考慮しながら実施する方策を立てておく。またスタディアプリの活用についての検証とオンラインの学校説明会の活用について検討していく。 2) 活用を継続していく。キャリア教育としての自己理解、他者理解についても教育機会を拡充する。 3) 指導を継続していく。
4	地域等との協働	地域との交流や協働を深め、信頼され開かれた学校づくりを推進する。	学校運営協議会の円滑な運用を図り、地域や保護者等との交流や協働を深め、より信頼される開かれた学校づくりをすすめる。また、学校の魅力を発信すること	1) 学校運営協議会の組織を機能させ、地域行事やボランティア活動等への生徒参加や地域との連携を推進し、生徒の教育活動に生かす。 2) ホームページによって、本校教育活動を円滑に発信	1) 地域行事やボランティア活動に参加する生徒が増え、地域貢献を通じた教育活動の充実が図られたか。 2) ホームページの円滑な更新に向け校内整備がで	1) 感染症予防から地域行事が軒並み中止になり、部活動でのボランティア活動参加ができず、引地川土手のコスモス栽培を行った。 2) 概ね月3回以上の更新を行い、休校期間	1) 感染症の終息により、地域行事への参加可能が望まれる。 2) 学校説明会参加者の事前申込制について、よ	コロナ禍の中でも例年通りコスモスの播種を行い、生徒会・地域交流委員・学校運営協議会・保護者等によるコスモスの集いなど地域との交流が実施されたことは高く評価できる。PTAも参加して藤総ロードにアジサイを植栽した地域との協働は評価できる。今後、生徒の地域交流	1) 引地川土手のコスモス栽培と藤総ロードの紫陽花植栽を行った。感染症防止対策のため、地域の方の参加が困難な状況であったが、今後も継続していきたい。 2) 秋以降引き続き部活動等の様子や学校紹介動画を掲載したり	1) 長後行政センターや共有フォーラムでの連絡により、地域の方の参加を促進し、交流を盛んにする。 2) 今後はさらに多様性に富む総合学科の教育活動

			によって、地域に信頼される学校づくりを実行する。	できるよう整備にあたる。	きたか。(ホームページ更新月3回以上)	中にも「藤総生なう」などを更新することで期間中の生徒の様子などを配信した。	り周知できるような情報発信をしていく必要がある。	委員会を一種の部活動にしてはどうだろうかと考える。	概ね月3回以上更新し充実を図った。学校説明会の申し込みもホームページで行い特に第1回、第2回については多数の参加者が見られた。	を掲載しより充実した発信をしていく必要がある。
5	学校管理・学校運営	職員の教育力や事故・不祥事防止に係る取組を効果的に実施し、協働意欲と組織力の向上を図る。 働き方改革を推進するための職員の意識改革を図る。	①災害時の安全対策の充実を図り、生徒の防災意識を高める。不祥事防止研修等を充実させ、職員の資質向上に向けた取り組みを効果的に実施し、組織的な課題解決力の向上を図る。 ②職員の長時間勤務を是正する。	①1)学校と地域が連携した防災訓練やDIG研修を実施し、防災教育の充実を図る。 2)職員の資質向上や不祥事防止に向けた研修をより有効なものとなるよう工夫し、計画的かつ継続的に行う。	①1)年2回以上の避難訓練や地域と連携した防災訓練等を実施し、職員や生徒の防災意識を高めることができたか。 2)職員の事故・不祥事を未然に防止することができたか。点検シート等を活用し職員の資質向上効果が見られたか。	①1)4月の体育館集合訓練は中止となった。8月末に1回実施。地域と連携した防災訓練等はできていないが、職員・生徒の防災意識を高めることはできた。 2)定例の職員会議の際に点検シートを活用して実施した。	①1)感染症防止対策から、集合時に密を避けたところだが、訓練上やむを得ない部分がある。 2)事務員や会計年度任用職員などへの研修について検討が必要である。	令和2年度は2月27日の一斉臨時休校から始まり、その後4月7日に緊急事態宣言が発出され学校運営と教育が行われた。誰も経験したことがない無い非日常の中で各グループによる学校教育や運営が行われたが、その中でも生徒が満足する成果を挙げられたことに敬意を表す。まだコロナ禍は続くと思われるが、この経験を生かして生徒の為に、一層の尽力を願う。	①1)4月の体育館集合訓練は中止となった。8月末に1回実施。地域と連携した防災訓練等はできていないが、職員・生徒の防災意識を高めることはできた。 2)職員会議での年間12回事故防止研修や行政課による事故防止研修会、若手人材育成研修会等を実施することで事故防止に繋がった。	①1)感染症防止対策から、集合時に密を避けたところだが、訓練上やむを得ない部分がある。屋外で短時間で実施することが求められる。 2)職員会議での事故防止研修以外にも外部講による研修会や職員相互の研修、若手人材育成研修などの回数を増やす必要がある。